

調査報告書

- 1 とき：2011年9月8日
- 2 行先：名古屋市衛生研究所・名古屋市食品衛生検査所
- 3 参加者：山口清明、政務調査補助員（浜田）
- 4 主な内容

【名古屋市衛生研究所】

震災後の名古屋市の食品検査状況と検査結果を調査した。

- ・ 「チェルノブイリの時に購入した放射線検出機器で定期的に検査を続けてきたから、今回約2週間の立ち上げ準備期間後すぐに検査を始めることができた。
- ・ 1つの検体を検査するのに2時間以上かかるので、1日に3つの検査が限界であるが、放射線検査は長期に渡って行う必要がある。」との博士の言葉で、研究のあり方というものが少しわかりました。（現在1台で検査、年明けにもう1台リース予定）
- ・ 検査結果はホームページで一般公表されている。

【名古屋市食品衛生検査所】

検査所の機構と職員の仕事を調査した。

- ・ 毎日午前2時から、せり前の食品(1日30品目位)の農薬や放射能のチェックし、月に2~3回抜き取り衛生研究所で検査してもらう。検査所では1台のサーベイメーター(1台約50万円、11月頃2台増える予定)でセシウムの検査をしているが、この機械は一般貸出しも可能。現在週1回位依頼があり、職員が出向き検査している。保健所に問い合わせがあった分にも対応している。
- ・ 学習センターでは要望に応じて勉強会を開催し、マイクロバスの無料送迎付きで他の工場見学などと合わせて計画相談も行き、市民とコミュニティをはかり要望を取り入れることに積極的に動いている。
- ・ 研究所と検査所の地道な検査は、名古屋市民の食の安全を守ってくれているが、消費地で調査を行うだけでは根本的な解決にはならない。
- ・ 研究所も検査所も要望は同じで、「県や国レベルで新システムを早くつくって、生産地でしっかりと検査を行い、各自治体はそのエラーを拾う程度に」とのことだった。
- ・ 検査所では、「市民の検査依頼に応えるために、各保健所でサーベイメーターを

用意し対応してほしい」とも要望していた。



〈衛生研究所 放射線測定機器〉



〈研査所 持運び可能なサーベイメーター〉